

政府は内部被ばく軽視

原爆被爆者治療 肥田さん講演 札幌

広島、長崎の原爆被爆者の治療を60年以上続けている医師肥田舜太郎さん(95)が、16日、札幌市中央区の札幌全日空ホテルで開かれた。自らも広島で被爆し放射線被害の実



情を見た経験に基づき、福島第1原発事故がもたらす放射線内部被ばくの危険性を訴えた。医療九条の会北海道などが主催し、約40

0人が集まった。広島出身の肥田さん

は、内部被ばく患者の診療に携わる中で、だるいなどさまざまな慢性的な症状を診てきたことを振り返った。戦後、米国や日本政府が原爆による内部被ばくの影響を軽視したこと指摘し、「今も原発事故による内部被ばくを軽視しており、状況は似ている」と強調した。

原発の再稼働についても「稼働に向けた動きは放射線の脅威を忘れ、金もうけに走っているだけ」と批判。その上で「孫やひ孫などを引き継がないことが今を生きる者の責任」と脱原発社会を求めた。

(長谷川紳二)

原爆被爆者を治療した経験から、原発事故の健康被害を軽視しないよう訴える肥田舜太郎さん



被爆者の惨状を語る肥田さん

市民団体「原発ゼロをめぐす旭川連絡会」が主催。原発への関心が高まる中、被爆者について知ってもらおうと講演会を開き、約180人が来場した。肥田さんは、診察した被爆者が次々に亡くなった体験を振り返り「被爆の実態はアメリカから軍事機密扱いとされ、本当の恐ろしさ

原子力爆弾投下後の広島で被爆者を診た医師の肥田舜太郎さん(95)の講演会が17日、旭川市内で開かれた。肥田さんは被爆の惨状を振り返りながら、「原発と核兵器をなくすべきだ」と訴えた。

(田島工幸)

「次世代のため脱原発を」

旭川

原爆投下後
広島で治療
医師・肥田さん講演

は今なお把握されていない「被害を懸念し「次世代の責任だ」と強調し
ない」と指摘。福島のために原発をやめる
原発事故による放射線のが今を生きるわれわれ